

# 東京農工大学の取り組み

## 「農工大プラスチック削減5Rキャンパス」(TUAT Plastic 5R Campus)

キャンパス内に、「マイボトル用浄水給水器」を設置し、大学内におけるペットボトル使用量の削減に取り組んでいる。



学内では、学生ボランティア隊が給水器の清掃を行ったり、利用促進のためのポスターを作成し掲示したりしている。左のポスターは小金井・府中キャンパスに掲示されているポスター。

大学生協にて、オリジナルマイボトルやマイバッグの販売を行っている。

この他、2020年4月から、会議等でペットボトル飲料の配布を禁止したり、学生ボランティア隊による活動を行ったりし、プラスチック使用量の削減に努めている。これらの取り組みの結果、大学内におけるプラスチック使用量が2018年から2019年にかけて2300kg削減された。この他、構内の自動販売機からペットボトル飲料をゼロにしたり、マイクロプラスチックの研究や代替素材の研究を進めたりと、プラスチックに関する社会課題を解決する研究を行っている。QRコードを読み込み、東京農工大学が行っている取り組みをチェックしてみよう!



## 株式会社資生堂の取り組み

### パッケージポリシー「資生堂5Rs」

「Respect (リスペクト)・Reduce (リデュース)・Reuse (リユース)・Recycle (リサイクル)・Replace (リプレース)」



海の世界をイメージしたリップパレット。  
容器に使用されている素材は 100%植物由来で、海や土の中など幅広い環境下で分解されることが期待されている。  
この素材化粧品容器に使用することは、世界初の取り組み。



化粧水・乳液のつめかえ用の販売を開始。  
本体ボトルにつめかえて使用することで、廃棄プラスチックの量を削減することができる。  
また、サトウキビ由来のポリエチレン容器を使用することで、焼却時に発生する二酸化炭素量を削減することができる。



イオンの売り場内に設置された回収ボックスで、対象となる化粧品の使用済み容器の回収を行っている。回収された空き容器は、洗浄・粉砕されたのち、ペレット(プラスチックの素材)になり、新たな資源として再活用される。



これらの取り組みの他にも、使用済み容器を洗浄し新しい美容液を充填するレフィルサービスや、モノマテリアル容器の展開など、プラスチックごみ問題を解決するために様々な取り組みを行っている。  
QRコードを読み込み、この他の取り組みもチェックしてみよう!

資生堂のサステナビリティレポート



# 千代田区立日比谷図書文化館の取り組み

## 展示「アートでSDGs 日比谷の森で考えるプラスチックと地球環境～いま、できることから～」

(展示期間:2021年6月22日～9月6日)



環境問題や共生社会を取り上げた書籍や、プラスチックごみ問題をモチーフとしたアートの展示。展示されていたプラスチックアートには、空・海・陸の循環とごみ問題のつながりが表現されている。

展示コーナーに向かう階段を上ると、海洋プラスチックごみ問題に関する記事が掲載された雑誌が展示されていた。一般誌から、「食品と容器」「環境管理」といった専門誌まで幅広い雑誌が海洋プラスチック問題を取り上げている。

海洋プラスチックごみ問題の解決に取り組む人々の紹介パネル。NPO 法人チームくら号や、WWF(世界自然保護基金)の活動が紹介されていた。様々な団体が、様々な方法でこの問題の解決に取り組んでいる。



書籍の展示だけでなく、海洋プラスチック問題の解決に向けた取り組みやアートの展示など、様々な角度からこの問題を考える展示を行っていた。QRコードを読みこみ、日比谷図書文化館の取り組みを詳しくチェックしてみよう!

『沈黙の春』の著者として知られるレイチェル・カーソンの展示。また、彼女の著作『センス・オブ・ワンダー』に魅せられた、生物学者福岡伸一博士の著作も展示されていた。



「アートでSDGs」の紹介ホームページ

## 八王子市の取り組み

### JICA 草の根技術協力事業「ミクロネシア連邦チューク州でのごみ問題改善」

ミクロネシア連邦は、太平洋の海に浮かぶいくつもの島から構成されている。そのうちのチューク州では、十分なごみ収集や処理がなされず、道路や海岸にごみが放置されたままになる地域があった。八王子市は JICA や大学と連携し、六回に渡る職員の現地派遣のほか、現地のスタッフを日本国内に招いて研修を行うなど、この問題の解決に取り組んできた。

現地には、ごみ焼却施設やリサイクル施設がない。このため、住民がごみ減量に向けた意識を高めるよう、2R(リデュース・リユース)の普及を行った。

現地 NGO と協力し、カラフルなオリジナルマイバッグを作成した。また、八王子市にある大学と連携し、現地で「No レジ袋 Day」というイベントを開催した。マイバッグは好評で、その後、現地でのレジ袋辞退率が向上した。



出前授業や寸劇を通して、ごみ問題の知識や、海洋ごみについて住民に伝えたり、住民と清掃活動を行ったりした。これらの活動には、大人も子どもも参加し、活動をきっかけに、ごみ問題への関心や島をきれいにしようという意識が高まった。そして、住民が自発的に清掃活動を行うようになり、海岸や島内に放置されていたごみが減り、美しい景観が取り戻されるようになった。

現地の職員に対してごみ収集や収集車両の整備・点検の研修を実施し、現地の人々が自分達で十分なごみ収集を行えるよう支援を行った。八王子市で行っているごみ収集の業務内容を伝え、丁寧な指導を重ねた結果、現地職員の意識が高まり、スムーズな業務が行われるようになった。活動の中で、八王子市職員と現地職員との間の親交も深まったという。



この取り組みは、八王子市のホームページに詳しく紹介されている。QRコードを読み込み、八王子市の取り組みをチェックしてみよう!

